

## 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第3報）

前田美和子\*, 加藤 美帆\*\*, 桧崎久美子\*\*\*

(2018年12月9日 受理)

### On the Possibility of Improving Non-Cognitive Skills as an Outcome of the Education Based on the Principles of Christianity (3<sup>rd</sup> Report)

Miwako MAEDA\*, Miho KATO\*, Kumiko NARAZAKI\*\*

This research paper is continuing research which advances the previous studies *On the Possibility of Christian Education for the Nurturing of Uncognitive Abilities* (Maeda, Narasaki, Kato, 2017-2018). The research is based on comment cards, which were completed over 16 weeks during the spring semester (April – July), and were completed by students at Hiroshima Jogakuin University's 'Christian Hour', held once a week. The results have been compiled using text analyzing software, the purpose being to compliment and advance previous research findings.

In addition, a further survey was conducted during the Introduction to Christianity I class. This also took place throughout each week during semester one. The result of the completed questionnaires suggest that students, rather than acquire knowledge about Christianity, would rather acquire the necessary skills to enable self-reflection and individual thought and to utilize these in everyday life. Thoughts were recorded in response to speeches and testimony from various speakers during the sessions. The student reaction was positive and led to a belief that they could improve their 'behavior in a public place' and 'respect for others'.

The studies' findings suggest that because of the time dedicated to specific Christian based education, students can question and find themselves. Such an approach helps them to navigate sensitive personal, and social situations.

**Keywords:** Non-Cognitive skills 非認知能力, Christian Education キリスト教主義教育, Text Mining テキストマイニング

#### 1. はじめに

本研究は前田ら（2017）による「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」、前田ら（2018）による「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第2報）」の継続研究である。

前報に引き続き、先行研究の検討をしたところ、名古屋学院大学におけるチャペル運営に関する研究があった<sup>注1)</sup>。これはチャペルを中心にして行われるキリスト教主義大学における宗教活動が、学生たちに対して人格形成、人間形成の期待されるものであるとした上で、現在

の運営に関する課題についての提言が示されていた。

これまでの研究を振り返ると学生たちに影響を与えるキリスト教主義教育として「キリスト教の時間」<sup>注2)</sup>を取り上げてきたが、本研究を通して非認知能力<sup>注3)</sup>とも関わる人間力を育成する可能性が示唆され、また、正課外の全学的な取り組みでありながら学科の専門性によって異なった教育効果があることを明らかにした。

そもそも本研究はキリスト教主義教育・キリスト教保育の普遍性の部分に注目し、その価値及び教育・保育実践上の意義を明らかにしようとする試みであり、様々な背景を持つ研究者が共同で取り組むことにより、キリスト教主義教育やキリスト教保育の意義を様々な視点から見つめなおし、その現代的意義を再評価しようとしてい

\* 広島女学院大学共通教育部門准教授

\*\* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科准教授

\*\*\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科准教授

るものである。そして、ゆくゆくはノンクリスチャンの教員や学生にもその現代的意義をわかりやすい形で示し、共有していくための術を見出し、さらなる教育効果の向上を図ることを目指すものであることをここで確認しておきたい。

つまり本研究は探索的研究であるという観点から、さらなる発展的なアプローチの試みとして本論では2017年春学期の「キリスト教の時間」のコメントカードの分析とともに、初年次に必修となっている「キリスト教入門Ⅰ」との関連性を検討していくこととする。

## 2. 研究の目的及び方法

本研究では、これまでの研究を踏まえつつ、2017年度春学期期間中に行われた「キリスト教の時間」全16回において提出されたコメントカードについてテキストマイニングソフトによる分析を行った。テキストマイニングソフトは、前報同様KHcoder (ver.2.00f)を使用した。なお、前報同様、本研究においても、明らかな誤字・脱字の修正の他、同義・類義の語を前後の文脈等も含めて丁寧に確認し、記載内容の改変とならないよう十分に留意しつつ、共同研究者全員で協議の上、同じ意味として用いられていると判断された語については、出来る限り頻度の高い語ひとつに統一するなど、より精緻なデータクリーニングを行った上で分析を行うものとした。

## 3. 結果及び考察

各回の内容および出席者数と提出されたコメント数、割合は表1に示した。講話のテーマとしては、前々報と大きな差はない。表2には2016年度春学期の各回の内容及び出席者数と提出されたコメント数、割合を示した。ここから2017年度の特徴を鑑みると、2016年度春学期に比較し、2倍以上のコメント率であった。なお、2016年度春学期のコメント率のうち、最も高かったのは第3回春学期主題解説「大人になるということ」(36%)であり、次いで第10回沖縄「慰霊の日」に祈る、歌う、踊る「沖縄の現状と課題」、「沖縄の歌と踊り」(36%)、第12回私たちからのメッセージ～学生ボランティア活動報告(35%)であった。それに対し2017年度は第1回賛美歌を歌おう(88%)、次いで第3回春学期主題解説「半径30cmからの脱出」(87%)、第2回ゲーンズ記念礼拝「校母ゲーンズ先生」(80%)であった。以上のことから、2017年度の学生は、比較的開始当初のコメント率が高く、最終回にいたっては26ポイントの減少が見られた。とはいえ、半数以上の学生がコメントを書き続けており、自分の意見を表現することに積極的な傾向がうかが

えた。

次に、テキストマイニングの結果、110,815語が抽出され、うち41,068語が分析に使用された(このうち、使用された異なり語数は3,239語)。このうち、出現回数の多い頻出語のうち10位までを表3に示した。

各回の講話の感想として提出されるコメントカードの性質上、「思う」の出現回数が高くなることはある意味当然であるが、同じ文中に高い確率で同時に出現している関連語を明らかにすることにより、学生たちが何を思っているのかに踏み込むことができると考えられる。「思う」の関連語としてあがった語のうち、上位5つを示したものが表4である。1位には頻出語でも4位にあがっていた「自分」が、2位には頻出語でも6位にあがっていた「人」があがっており、「キリスト教の時間」を通して、自分自身や他者(隣人)に対して思いを致して欲しいという、「キリスト教の時間」のねらいのひとつが確かに達成されていることが、学生のコメントカードの分析から示されたと言える。そしてこのことは、同時に、学生たちの中に、自分について思索を深め、他者に関心をもつ態度が育まれていることを示唆するものであると言える。

さらに踏み込み、「思う」「自分」の2語との関連語を見たところ、1位に「考える(0.08370)」, 2位に「今(0.05430)」, 3位に「見る(0.05080)」が、「思う」「人」の2語との関連語を見たところ、1位に「多く(0.05390)」, 2位に「悲しい(0.05040)」, 3位に「殺す(0.04210)」があがっていた(( )内数値はすべてJaccard係数)。これらから、「自分」に意識を向け、講話の内容をしっかりと自分にひきつけて考えることもできていることがうかがえるほか、自分の生きる「今」に思いを致そうとする姿勢や、世の中を「見る」こと、すなわち世の様々な出来事に目を向け、思いを致す必要があるという気づきを得ていることもうかがえる。「人」について思う内容として「悲しい」や「殺す」などの語があがっていたのは、原爆等人類の負の歴史や現代社会の負の側面に向き合うような内容の講話の際に、強く「人」について思いを致したためであると考えられる。これらのことは、16年度春学期のコメントカードについて、各学科の特徴を視覚的につかむため描いた共起ネットワーク図から示唆された知見ともおおむね一致する傾向であり、それらを補完する知見であると言える。

また、頻出語の2位、3位には「知る」「分かる」が、9位には「考える」があがっていることや、5位に「聞く」、7位に「話」等があがっていることを踏まえると、学生が講話の内容をしっかりと聞き、受け取ってくれて

表 1 2017年度各国の内容および出席者数と提出されたコメント数、割合

回	内容	幼児教育心理学科						生活デザイン・建築学科						管理栄養学科						国際教養学科						合計		
		全体の出席 (327名)			1年生 (77名) の出席			コメント			全体の出席 (204名)			1年生 (54名) の出席			コメント			全体の出席 (503名)			1年生 (108名) の出席			全体の出席 (1331名) ※2017.5.1 現在		
		数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数
		率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率	率
第1回	賛美歌を歌おう	76	23%	73	95%	70	92%	53	26%	50	93%	50	93%	65	100%	66	99%	113	22%	99	92%	87	77%	309	23%	287	94%	273
第2回	ゲーンズ記念礼拝「校母ゲーンズ先生」	82	25%	77	100%	68	83%	57	28%	54	100%	44	77%	66	23%	64	98%	117	23%	103	95%	86	74%	322	24%	298	98%	257
第3回	春学期主題解説「半径 30 cmからの脱出」	80	24%	76	99%	71	89%	46	23%	42	78%	40	87%	66	23%	65	100%	107	21%	96	89%	86	80%	299	22%	279	91%	259
第4回	「むなしいだまし事によって人のとりこにされないように」	80	24%	74	96%	61	76%	50	25%	48	89%	36	72%	66	23%	65	100%	107	21%	97	90%	74	69%	303	23%	284	93%	227
第5回	「映像で見るキリスト教史2000年と広島女学院大学131年」	78	24%	73	95%	35	45%	52	25%	49	91%	25	48%	66	23%	65	100%	126	25%	107	99%	84	67%	322	24%	294	96%	179
第6回	「原発事故の被害って何？」	78	24%	73	95%	57	73%	54	26%	50	93%	34	63%	65	23%	65	100%	119	24%	106	98%	85	71%	316	24%	294	96%	236
第7回	「平和は非常時の鏡なんよ」～心の危機管理コリントの信徒への手紙～13章12節	79	24%	76	99%	63	80%	54	26%	49	91%	33	61%	67	23%	65	100%	115	23%	104	96%	83	72%	315	24%	294	96%	231
第8回	ソト（海外）から「ひろしま」を見て	78	24%	74	96%	59	76%	44	22%	43	80%	29	66%	66	23%	65	100%	108	21%	97	90%	73	68%	296	22%	279	91%	215
第9回	「ヒロシマとカンボジアをつなぐ」	76	23%	74	96%	56	74%	45	22%	44	81%	33	73%	66	23%	65	100%	99	20%	88	81%	68	69%	286	21%	271	89%	212
第10回	「叫びたし寒満月の朝れるほど」届かなかった無実の叫び～福岡事件から冤罪と死刑を考える	77	24%	73	95%	52	68%	51	25%	49	91%	30	59%	66	23%	65	100%	100	20%	88	81%	68	68%	294	22%	275	90%	201
第11回	沖縄「慰霊の日」に祈る、歌う、踊る「沖縄の現状と課題」「沖縄の歌と踊り」	79	24%	74	96%	57	72%	41	20%	40	74%	27	66%	66	23%	65	100%	49	74%	95	88%	79	72%	296	22%	274	90%	212
第12回	「わたしたちからのメッセージ～学生ボランティア活動報告」	77	24%	72	94%	50	65%	44	22%	43	80%	27	61%	65	23%	65	100%	51	77%	89	18%	79	73%	276	21%	259	85%	190
第13回	第51回原爆講座～8.6の意味するもの～被爆証言「八月の夕風」	73	22%	68	88%	50	68%	40	20%	38	70%	19	48%	64	22%	63	97%	43	67%	107	21%	96	89%	69	64%	284	21%	265
第14回	第51回原爆講座～8.6の意味するもの～（第2回）～「在外被爆者問題」	75	23%	73	95%	53	71%	41	20%	41	76%	25	61%	63	22%	63	97%	44	70%	109	22%	96	89%	76	70%	288	22%	273
第15回	本学院同窓生からのメッセージ「すべては挑戦の一手から」	76	23%	72	94%	48	63%	19	9%	19	35%	12	63%	63	22%	63	97%	41	65%	78	16%	71	66%	51	65%	236	18%	225
第16回	「春学期を振り返って」	37	11%	34	44%	26	70%	7	3%	7	13%	1	14%	27	9%	27	42%	16	59%	30	6%	26	24%	20	67%	101	8%	94
	平均	75.1	23%	71	92%	54.8	73%	43.6	21%	41.6	77%	29.1	63%	63.1	22%	62.2	96%	49.6	78%	102.1	20%	90.5	84%	71.9	70%	283.9	21%	265.3

(データをもとに著者作成)

表2 2016年度春学期の各回の内容及び出席者数と提出されたコメント数、割合

回	タイトル	国際出席者 (110)	コメント数	学科別 コメント率	出席率	生活出席者 (56)	コメント数	学科別 コメント率	出席率	管理出席者 (80)	コメント数	学科別 コメント率	出席率	幼心出席者 (82)	コメント数	学科別 コメント率	出席率	回別全体 コメント率
1	讃美歌を歌おう	118	43	36%	100%	56	24	43%	100%	100	9	9%	100%	82	28	34%	100%	29%
2	ゲーンズ記念礼拝「校母ゲーンズ先生」	114	53	46%	97%	65	17	26%	116%	101	13	13%	101%	88	30	34%	107%	31%
3	春学期主題解説「大人になるということ」	111	59	53%	94%	62	24	39%	111%	101	11	11%	101%	84	38	45%	102%	37%
4	小さい者を大切に	105	52	50%	89%	62	13	21%	111%	94	8	9%	94%	84	32	38%	102%	30%
5	カンボジアスタディツアー報告	118	61	52%	100%	63	14	22%	113%	103	7	7%	103%	85	32	38%	104%	31%
6	ハミガキするように社会のことを考えよう	106	58	55%	90%	60	10	17%	107%	91	14	15%	91%	75	30	40%	91%	34%
7	7となりの人として	108	42	39%	92%	64	9	14%	114%	93	3	3%	93%	78	29	37%	95%	24%
8	福島の中から見えてきたもの－変化の中で生きる	92	46	50%	78%	50	7	14%	89%	83	8	10%	83%	78	27	35%	95%	29%
9	あなたを待つ世界	91	45	49%	77%	38	11	29%	68%	77	11	14%	77%	67	12	18%	82%	29%
10	沖縄「慰霊の日」に祈る、歌う、踊る「沖縄の現状と課題」, 「沖縄の歌と踊り」	80	52	65%	68%	34	10	29%	61%	80	4	5%	80%	61	25	41%	74%	36%
11	私たちからのメッセージ－学生ボランティア活動報告	69	36	52%	58%	35	16	46%	63%	80	8	10%	80%	80	33	41%	98%	35%
12	第50回原爆講座－86の意味するもの（第1回）「被爆電車の車掌を務めて」	99	51	52%	84%	51	14	27%	91%	98	5	5%	98%	78	39	50%	95%	33%
13	第50回原爆講座－86の意味するもの（第2回）「被爆証言」	96	47	49%	81%	45	8	18%	80%	91	9	10%	91%	66	30	45%	80%	32%
14	ミッションスクールで出会ったキリスト教	77	23	30%	65%	20	3	15%	36%	87	2	2%	87%	45	14	31%	55%	18%
15	今学期を振り返って	66	28	42%	56%	4	1	25%	7%	75	4	5%	75%	52	21	40%	63%	27%
	平均	96.7	46.4	48%	82%	47.3	12.1	26%	84%	90.3	7.7	9%	90%	73.5	28.0	38%	90%	30%

※出席者欄の（ ）内の数字は1年生の人数を分母として計算している。

(データをもとに著者作成)

表3 出現回数の多い語

順位	抽出語	出現回数
1	思う	2,220
2	知る	904
3	分かる	598
4	自分	511
5	聞く	468
6	人	443
7	話	319
8	大切	309
9	考える	299
10	初めて	297

表4 「思う」と強く関連している語

抽出語	全文書中の出現数	共起	Jaccard係数
1 自分	459	267	0.11720
2 人	396	192	0.08380
3 聞く	449	169	0.07140
4 凄い	235	135	0.06170
5 大切	302	135	0.05990
6 考える	290	124	0.05500
7 怖い	160	103	0.04800
8 今	238	105	0.04730
9 たくさん	250	97	0.04730
10 見る	229	94	0.04230

いること、そしてそれぞれに、様々なことを思い、考えてくれていることもうかがえる。そして、8位に「大切」があがっていることから、各回の話者のメッセージから「大切」なことを各自が見出し、汲み取ろうとしている姿勢もうかがうことができる。また、10位には「初めて」の語があがっていたことから、「キリスト教の時間」に語られる話が、学生にとって、そのことに初めて接し、触れる場となったり、何事かに目を開かれたり、考えたりする契機となっている可能性も示唆された。

これらのことから、「キリスト教の時間」は、学生の自己認識を深め、社会的適性を醸成する場として機能していると考えられるとともに、講話を契機に生まれた問題意識に基づいて、各自がより積極的に学科での学びや課外活動に取り組むようになるといった、学生の意欲を育

む場としても機能している可能性が示唆された。このことは、これまでの一連の研究の中でも指摘してきたように、本学におけるキリスト教主義教育が、学生の非認知能力の育成に寄与していることを示唆する結果であり、また、時代を越えて大切に受け継がれ、守り続けてきたキリスト教主義教育の伝統が、過去の遺物ではなく、現代的意義を持つことを改めて示すものであるといえる。

次に、「キリスト教の時間」を契機とした学生の学びや、正課の授業とも連動した非認知能力の育ちについてさらに明らかにしていくため、次項では、「キリスト教の時間」と連動した授業である「キリスト教学入門Ⅰ」で実施された学びに関する意識についてたずねた質問紙調査の結果について述べる。

#### 4. 「キリスト教学入門Ⅰ」におけるアンケートとその結果、考察

本項では2018年に「キリスト教学入門Ⅰ」の受講者に対して行われたアンケートについての結果の報告とその分析・考察を行う。

「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」とは広島女学院大学の1年生全員を対象に行われる「本学の土台であり柱であるキリスト教について、理解を深めることを目的」とした授業であり、Ⅰは前期科目、Ⅱは後期科目として、通年で受講することが求められる初年次教育・全学共通科目である。この授業は必修科目として設定しており、シラバスでは「この学びを通じて、受講生が、イエス・キリストの教えと行いから、大学生そして社会人にとって必須の『クリティカル・シンキング』を培うためのきっかけを得ることを目標」としており、また、「人の“いのち”を活かし、尊厳・自由・平等をもたらす宗教が、他方ではなぜ人の“いのち”を奪い、尊厳・自由・平等を脅かすのかを共に考えることも目標」としている。

少なくとも2013年度から「キリスト教の時間」への出席を予習と位置付けており、その教育効果は「キリスト教の時間」と関連し、相乗させている可能性が考えられる。

そのような中で、本学のキリスト教主義教育の運営に責任を負う学内委員会である宗教委員会の実務部門である宗教センターの事業計画に基づき、今後さらに本学のキリスト教主義教育の充実を図るため、「キリスト教学入門Ⅰ」で受講生390名（再履修者含む）に対し、2018年6月の授業内にアンケート調査が行われた。このアンケート調査の実施については、大学宗教委員長の澤村雅史教授によると、「このアンケート調査はキリスト教教育における目標達成のため、『キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ』および



キリスト教教育活動（とくに『キリスト教の時間』）において、何がどのように学生に伝わっているか（いないか）、あるいは学生にどのような影響や効果をもたらしているかを測定するためのものであり、教学的な授業評価・授業改善とは異なって、キリスト教主義教育を効果的に促進するための検討材料とすることを目的として行われたものである。実施および設問内容については、宗教委員会および初年次教育を統括する共通教育部門での協議、検討を経た。質問項目は受講者の学習レディネスについて1～5段階で問う4問、本研究を踏まえ設定いただいた非認知能力に関する学習効果に関わるものを1～5段階で問う6問、学習姿勢に関することを1～5段階で問う3問、「キリスト教の時間」と「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」の授業を通して身につくような事柄を1～5段階で問う25問、このうち、シラバス上の授業目的、到達目標に関する項目が14問、本研究を踏まえて設定していただいた非認知能力に関する学習効果に関わる項目が6問、学校礼拝という枠組みから生ずる教育効果に関

する項目5問、その他として非認知能力に関わる学習効果を測定するために付け加える必要のある項目が2問設定されている。「キリスト教の時間」についての自由記述1問、「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」についての自由記述1問の計65問である。なお、1～5段階の評価については、「1. 全く無い」、「2. ほとんど無い」、「3. どちらとも言えない」、「4. ほぼその通りである」、「5. その通りである」であった。

紙面の都合上、ここでは「キリスト教の時間」で身につくような事柄、「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」で身につくような事柄についての平均値（有効回答数360名（再履修者除く））の全学的比較を表5、図1にて示す。

なお、身につくような事柄とは、前述したとおり、シラバスに記載されている達成目標にかかわる項目と非認知能力にかかわる項目などである。本研究では「キリスト教の時間」のコメントカードの分析を非認知能力の観点から行っているが、達成目標にかかわる項目も非認知能力ともかかわる項目とも言えるものもあるため、今回

表5 「キリスト教の時間」と「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」の比較

質問	身につくような事柄	キリスト教の時間	キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ
Q14.	自分の意見を表現する力	3.13	3.14
Q15.	キリスト教と現代社会との関係についての理解	3.40	3.69
Q16.	社会性	3.53	3.36
Q17.	キリスト教の教義（＝どんな宗教なのか）理解	3.51	3.99
Q18.	寛容の精神	3.30	3.42
Q19.	行動力	3.23	3.14
Q20.	自分で物事を確かめようとする姿勢	3.29	3.24
Q21.	好奇心	3.59	3.52
Q22.	自分を省みる力	3.46	3.40
Q23.	挫折から立ち直る力	3.36	3.23
Q24.	「建学の精神」についての理解	3.09	3.28
Q25.	自分と現代社会の諸課題との関係についての理解	3.50	3.44
Q26.	公の場でのマナー	3.64	3.37
Q27.	聖書の内容理解	3.43	4.03
Q28.	多様性への理解	3.63	3.66
Q29.	感受性	3.50	3.49
Q30.	キリスト教と自分との関係についての理解	3.20	3.52
Q31.	考え抜く力	3.47	3.47
Q32.	物事を継続する忍耐力	3.38	3.26
Q33.	他者に対する敬意	3.78	3.65
Q34.	CUM DEO LABORAMUS の意味の理解	3.18	3.31
Q35.	隣人愛	3.27	3.37
Q36.	話を聞く力	3.97	3.82
Q37.	常識を疑う力	3.58	3.59
Q38.	自分の意見を表現する意欲	3.38	3.38

（データをもとに著者作成）

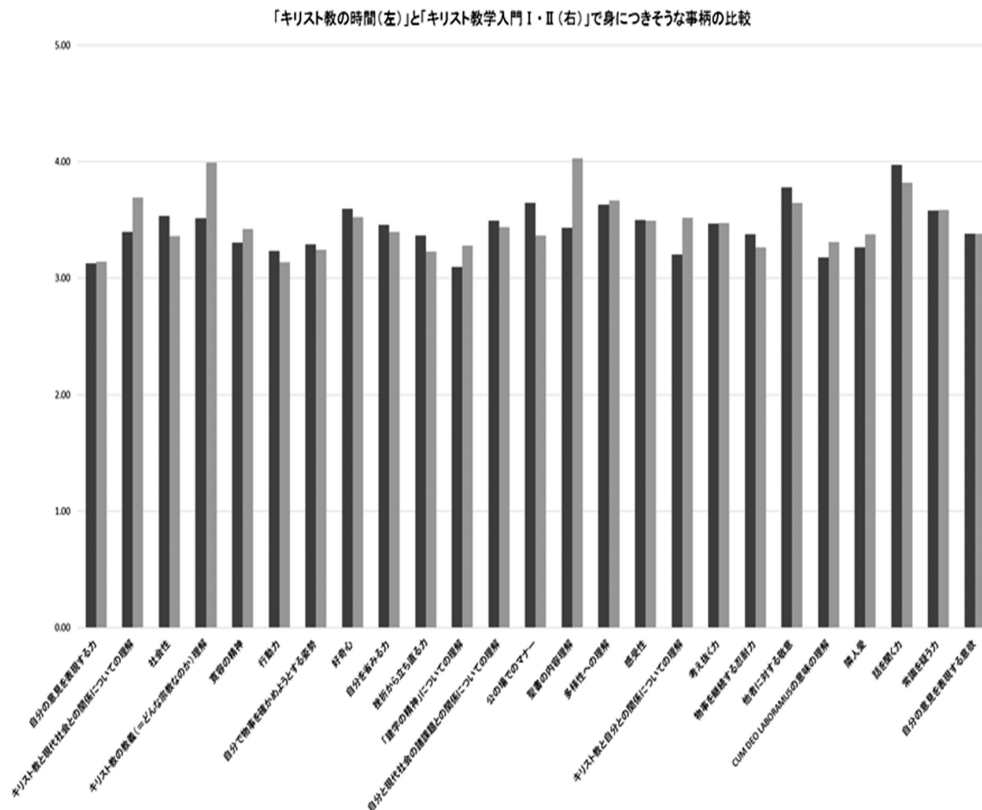


図1 「キリスト教の時間」と「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」で身につけそうな事柄  
(データをもとに著者作成)

の分析ではこれらを分けずに考察を行う。

「キリスト教の時間」と「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」で身につけそうな事柄25項目を比較した際、「社会性」、「行動力」、「自分で物事を確かめようとする姿勢」、「好奇心」、「自分を省みる力」、「挫折から立ち直る力」、「自分と現代社会の諸問題との関係についての理解」、「公の場でのマナー」、「感受性」、「物事を継続する忍耐力」、「他者に対する敬意」、「話を聞く力」の12項目が「キリスト教の時間」の数値が上回っていた。ここで、より詳細な違いを検討するため対応のあるt検定を行ったところ、以下の結果となった(表6)。

この結果から、身につけそうな事柄のうち「キリスト教の時間」の数値の方が高い値が出ていて、有意差があると認められたのは「社会性」、「行動力」、「挫折から立ち直る力」、「公の場でのマナー」、「物事を継続する忍耐力」、「他者に対する敬意」、「話を聞く力」の7項目であり、そのうち、十分なサンプル数であるといえるのは「社会性」、「挫折から立ち直る力」、「公の場でのマナー」、「他者に対する敬意」、「話を聞く力」の4項目であった。

2018年度の「キリスト教の時間」のコメントカードの分析は今後の研究にて取り組むことを予定しているが、

これまでのテキストマイニングでの分析でも出てきた、授業の中で習得される知識的なことではなく、自分自身で考え、受け止め、今後活かそうとする能力が「キリスト教の時間」で身につけそうだと受け止めていることがうかがえる。また、講堂で学年全員とともに聴講すること、回ごとに異なった講師から講話を聴くことから「公の場でのマナー」、「他者への敬意」などに高い値が出たのだと考えられる。

なお、「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」の数値の方が高く、有意差があると認められ、かつサンプル数が十分であるといえるのは「キリスト教と現代社会の諸問題との関係についての理解」、「キリスト教の教義(=どんな宗教なのか)の理解」、「『建学の精神』についての理解」、「聖書の内容理解」、「キリスト教と自分との関係についての理解」、「CUM DEO LABORAMUSの意味の理解」、「隣人愛」の7項目であり、これらはシラバスの内容と特に対応した力とも言え、授業内容や目的が学生に十分に理解されていることがうかがえる。

なお、上記のアンケートは2018年度後期にも予定されており、上記の内容と合わせて2018年度のキリスト教の時間のコメントカードとの関連の分析も今後行っていくたい。

表6 身に付きそうな事柄に関する t 検定の結果

質問	身に付きそうな事柄	変数 n	平均 (上:キリスト教の時間 下:キリスト教入門Ⅰ・Ⅱ)	P 値 *: P<0.05 **: P<0.01	検出力
Q14. Q39.	自分の意見を表現する力	362	3.119 3.122	0.9541	0.0504
Q15. Q40.	キリスト教と現代社会との関係についての理解	362	3.390 3.669	0.0000 **	0.9997
Q16. Q41.	社会性	361	3.524 3.357	0.0003 **	0.9545
Q17. Q42.	キリスト教の教義 (=どんな宗教なのか) 理解	362	3.512 3.981	0.0000 **	1.0000
Q18. Q43.	寛容の精神	362	3.298 3.406	0.0074 **	0.7667
Q19. Q44.	行動力	363	3.231 3.118	0.0132 *	0.6997
Q20. Q45.	自分で物事を確かめようとする姿勢	358	3.285 3.249	0.4253	0.1252
Q21. Q46.	好奇心	359	3.588 3.510	0.0590	0.4720
Q22. Q47.	自分を省みる力	360	3.442 3.369	0.0769	0.4246
Q23. Q48.	挫折から立ち直る力	359	3.362 3.201	0.0002 **	0.9611
Q24. Q49.	「建学の精神」についての理解	358	3.078 3.257	0.0001 **	0.9814
Q25. Q50.	自分と現代社会の諸課題との関係についての理解	357	3.473 3.420	0.2772	0.1920
Q26. Q51.	公の場でのマナー	360	3.631 3.358	0.0000 **	1.0000
Q27. Q52.	聖書の内容理解	359	3.407 4.022	0.0000 **	1.0000
Q28. Q53.	多様性への理解	357	3.611 3.633	0.5869	0.0843
Q29. Q54.	感受性	360	3.486 3.494	0.8210	0.0559
Q30. Q55.	キリスト教と自分との関係についての理解	359	3.187 3.515	0.0000 **	1.0000
Q31. Q56.	考え抜く力	360	3.450 3.456	0.8939	0.0520
Q32. Q57.	物事を継続する忍耐力	359	3.370 3.259	0.0109 *	0.7233
Q33. Q58.	他者に対する敬意	360	3.750 3.619	0.0031 **	0.8431
Q34. Q59.	CUM DEO LABORAMUS の意味の理解	359	3.153 3.292	0.0007 **	0.9289
Q35. Q60.	隣人愛	359	3.231 3.357	0.0007 **	0.9256
Q36. Q61.	話を聞く力	360	3.958 3.825	0.0001 **	0.9711
Q37. Q62.	常識を疑う力	360	3.564 3.575	0.7933	0.0579
Q38. Q63.	自分の意見を表現する意欲	358	3.391 3.369	0.6308	0.0768

(データをもとに著者作成)

## 5. まとめ及び今後の展望

これまで、歴史的な観点や思想に関する解釈などを中心にキリスト教主義教育に関する研究が行われてきたが(第2報)、本研究では新しい視点でキリスト教主義教育

を見ている。この研究は実証研究の側面を持ち、これまで学生のコメンタリーをデータ化し、多くのエビデンスを構築してきた。

本研究におけるコメントカードの分析からは、「キリス



ト教の時間」が、学生の自己認識を深め、社会的適性を醸成するとともに、講話を契機として生まれた問題意識に基づいて、各自が意欲的に学業や課外活動に取り組むきっかけとしても機能している可能性が示唆された。また、学びについての意識調査からは、授業を通して身につくものについて、学生が実際にどのように捉えているのかをうかがうことができた。

学生たちが4年間の学びを通して自己を確立し、社会の中で生きていく力を育む上で、その学びの基盤となる非認知能力の育成にキリスト教主義教育が寄与しうる可能性を示すものであり、本研究は、キリスト教主義教育の成果の一端についてエビデンスを示し得る、実証研究のひとつになり得ると考えられる。よって継続して研究を進め、さらなるエビデンスを分析することでキリスト教主義教育が人格形成に関わる可能性があることを具体的に実証できる可能性がうかがえた。

つまり、青年期には自己省察を通して人格を形成するのであるが、同時期に本学のようなキリスト教主義教育に触れることで、自己を認識し、社会性を獲得できるということを本研究は示唆している。

この能力は、非認知能力の一つでもあり、さらに文部科学省が次期学習指導要領で育成を目指す資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性」<sup>注4)</sup>に関わるものでもある。このことはノンクリスチャンの教員や学生にとっても理解がしやすいと考えられ、引き続きキリスト教主義教育の現代的意義を再評価していきたい。

今後の研究計画としては、2017年度秋学期の「キリス

ト教の時間」のコメントカードの分析、2018年度前期・後期の「キリスト教の時間」のコメントカードの分析を終え、2016年度からの3年間のデータをまとめ、さらなる分析をしていく。そして、本研究で取り上げた「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」でのアンケートの後半も含め、非認知能力との関連性やキリスト教主義教育、キリスト教保育の教育効果の向上を図るために必要なすべを模索していくこととする。

## 謝辞

本研究にあたり、大学宗教委員長である澤村雅史教授に多大なるご協力をいただいた。ここに記し、謝辞とする。

## 注

- 1) 文 禎顕「キリスト教主義大学におけるチャペル運営の原理と改善に関する一考察—名古屋学院大学を中心に」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』第54巻（4）、pp. 127-152, 2018
- 2) キリスト教の時間については、本研究第2報（前田ら「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第2報）」『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要（4）』, pp. 61-70, 2018）を参照されたい。
- 3) 非認知能力については、本研究第1報（前田ら「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」『幼児教育心理学科研究紀要』（3）、pp. 47-53, 2017）を参照されたい。
- 4) 文部科学省、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016年12月21日